

令和 8 年度第 1 回新発田市子ども・子育て会議 会議録 概要

会 議 名	令和 8 年度第 1 回新発田市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和 8 年 7 月 2 2 日（水）午前 1 0 時～ 1 1 時 4 5 分
開 催 場 所	新発田市役所本庁舎 5 階 会議室 5 0 1、5 0 2
議 題	(1) 新発田市こども計画の令和 7 年度事業実績報告について (2) その他
出 席 者	【委員】 9 名 金山愛子会長、木村雅子副会長、渡辺弘輔委員、熊倉亜矢子委員、吉井元樹委員（代理出席）、斎藤孝正委員、阿部聡子委員、小池学委員、阿部敬子委員 【説明課】 （健康推進課）山下課長、（青少年健全育成センター）狩野所長、（学校教育課）彌源治課長、（新発田駅前複合施設）本田施設長、（人権啓発課）内田課長、（社会福祉課）榎本課長、（地域安全課）本間課長補佐、（商工振興課）坂上課長 【事務局】 （こども課）太田課長、石山課長補佐、宮村課長補佐、中山センター長、中村副参事、鈴木係長、駒澤係長、佐藤係長、片野係長
欠 席 者	松田委員、大堀委員、上山委員、大川原委員、浅倉委員、平野委員、小林委員、村山委員
公開・非公開 の別	公開
傍聴人の数	0 人
配 布 資 料	①令和 8 年度第 1 回新発田市子ども・子育て会議次第 ②資料 1 新発田市こども計画 第 4 章 施策の展開（令和 7 年度事業取組実績） ③資料 2 新発田市こども計画 第 5 章 教育・保育及び地域の子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方法（令和 7 年度実績報告）
議題(1) 新発田市こども計画の令和 7 年度事業実績について	
各説明課	議題(1)について各々説明
（事前質問） 小池委員	6 番、人権相談に寄せられた相談件数及び相談内容は。
人権啓発課	管轄が新潟地方法務局新発田支局であるため、確認をした。法務局の方針として相談件数及び相談内容については公表していないが、実績として、夏休みが明ける前の「こどもの人権相談強化週間」で、実際に子どもから悩み相談などの手紙をいただいたことがあるとのこと。 重要な案件については、学校と連携して対策を講じているとのこと。

(事前質問) 小池委員	26 番、5 歳児健診で要観察となった児童及び保護者は、どのような機関につないでいるのか。他機関につないだ人数は。
こども家庭センター	令和 7 年度に 5 歳児健診を受診した児童は 593 名。そのうちの約 13%、人数にして 77 名が要観察、経過観察をしながらフォローが必要であるという所見が出ている。約 4 割強の 33 名は発達相談室への勧奨、その他の 44 名については、児童の特性に対して保護者の理解を得るのが難しく、引き続き園訪問やかかりつけ保健師による電話連絡等での経過観察をしつつ、継続支援を行っている。
(事前質問) 小池委員	157 番、延べ利用者が 0 人だった理由は。受託先は。
こども家庭センター	ケース毎に児童相談所等とも相談を行うが、令和 7 年度は短期支援を必要とする判断がなかったため、実績は 0 人となっている。 里親となる受託先は 4 か所あるが、ご本人様の申出もあり、外部には公表していない。
(事前質問) 小池委員	資料 2 第 5 章 (15) 親子関係形成事業はペアレントトレーニングと異なるものか。講師及び実施内容は。
こども家庭センター	新規事業の位置付けだが、内容としては、従来から行っている事業のペアレントトレーニングである。 講師は発達相談室職員が務めており、子どもへの適切な声かけ、褒め方、上手な距離の取り方が実施内容となっている。 ペアレントトレーニングには 2 種類あり、子どもの特性に合わせた親の理解促進を図る子供発達相談事業と子どもに対して虐待予防という観点での家庭児童相談事業がある。保護者向けのトレーニング講座となっており、講義あるいはロールプレイにて学ぶ内容で実施している。
(事前質問) 小池委員	療育支援が必要な子どもが放課後等デイサービスを利用希望しても、定員数の関係で利用できない場合がある。放課後児童クラブを利用しても、状態像から不適応を起し、困り感を抱える保護者がいる。 希望どおりに放課後等デイサービスを利用できない子どもが今後も増加すると推察されるが、放課後等デイサービスについて、今後はどのように検討されるのか。
社会福祉課	放課後等デイサービスは、量・質ともに足りない状況であるという認識である。新規で放課後等デイサービスを希望されても、定員の関係で利用ができないという状況である。 事業所の方から新設や増員を検討しているという話は聞いているが、今後、少子化が急激に進んでいく状況もあるため、事業所の方もその辺りを気にしている。 量的にも足りないところもあるが、より重度の方を受け入れていただける事業所がもう少し増えていただければと考えている。
小池委員	児童の数は減っているが、緊急性が高いような場面が多く見られるようになっている。その際は、こども課や児童相談所に協力いただき対応している。私達もそのような場合には、慌てずに支援し、子どもの命、安全を守るようにしたいので、今後とも協力願いたい。 放課後等デイサービスは何年も前からこの問題は起きている。放課後等デイサービスが増えても、すぐに満杯になっており、放課後児童クラブと併用される方もいる。放課後児童クラブも多くの子供を見ている中で、特性に配慮が必要な児童を適

	切に療育できるかという難しい問題である。 5歳児健診も含め、早期療育の大切さというところで、適切な支援が受けられることが大事だと思う。
渡辺委員	子ども支援について知っているつもりであったが、知らないことが多くあった。今後、様々な場面で多くの方に広げて行きたい。
こども課	保護者の皆様は横の繋がりが強いので、情報発信での拡散活用や、母子モや市の公式LINEなどのSNS等で情報発信をするのが一番スタンダードなやり方と考えている。こまめな情報発信をしていきたい。 各委員からも、良い制度があればご紹介いただきたい。
渡辺委員	公式LINEは配信されても、意外と既読スルーをしてしまう。スマートフォンを開くと、メールの件数が多く、内容確認の取捨選択だけで時間を取られてしまう。一方で隙間時間に、SNSを見ることがあるが、リール動画等を見てしまう事が多い。 AI等も普及しており、動画作成も手軽にできる時代になってきているので、ぜひチャレンジしていただきたい。
木村委員	市内の保育園・幼稚園に熊スプレーを配布したと説明されたが、クマスプレーだけを渡されても、現場では多分使えないと思う。クマスプレーは高価であり、試しに使用することもできない。 実際に使うための訓練や情報も同時に各園に伝わっているのか。
こども課	市では公立保育園を所管しているので、公立保育園にはクマスプレーを市の予算で設置した。私立保育園には、園長会議で公立保育園へのクマスプレー配置を情報提供した。 早期対策が必要と判断し、クマスプレーを配置したが、訓練までは実施できていない状況である。これから訓練等ができればとは思っている。
吉井委員 (代理)	小学校から放課後児童クラブへ行く際は、児童が集団で向かっている。クマ出没情報が多いときは、学校側でも教職員が見守る対策を取っているが、通常時は対策は取られていない。 小学校によって実情は異なるだろうが、地域に応じた対策を検討していただきたい。
学校教育課	学校の登下校についても同じような課題がある。 クマ出没時ではない期間についても不安な部分があると思うので、この期間をどうするのかというのは考えていく必要がある。いただいた意見を校長会や教育長と連携して情報共有をしたい。また、放課後児童クラブとも情報共有したい。
阿部(敬)委員	ママえ〜る cafe のチラシに「スマホで簡単申込み」とあるが、実際にやってみると、市のHPから市の電子申請に入って申込をする流れになっている。そんなに簡単じゃないと個人的に思った。 新規事業で「こども誰でも通園制度」があるが、市では子どもデイサービス事業があるのに、なぜ「こども誰でも通園制度」が新規事業で立ち上がったのか。
こども課	ママえ〜る cafe については、スタートしたばかりであり、今後わかりやすいように変えていきたい。 こども誰でも通園制度は国が進めてきた事業であり、市では公立保育園5園で取り組み始めた。4月から事業開始し、登録制度であり、1名の申込があったが、実際の利用には至っていない。現状では利用者が0人である。

	ほとんどが子どもデイサービス事業で対応できており、今後、運営の検証は必要である。
審議結果	出席委員過半数が賛成し、承認された。
議題(2) その他	
こども課長	現在委員の皆様の任期は 9 月末までとなっており、今年改選になる。 事務局としては、引き続き皆さんに継続をお願いしたい。後日、依頼をさせていただく予定である。
事務局	事務局からの連絡 ①次回の会議開催予定（令和 9 年 3 月を予定）について ②今回会議の議事録を市ホームページに掲載する
閉会	